

福岡市水道水源かん養事業基金 第33回運営委員会議事録

- 1 開催日時 令和8年7月2日(木) 13時30分～14時30分
- 2 開催場所 水道局本館4階局議室
- 3 委員数 8名
- 4 出席者 8名
- 5 議事
 - I 事業報告について
 - II 令和7年度事業実績について
 - III 令和8年度事業について

○基金概要について 事務局説明

- 議事Ⅰ 事業報告について 事務局説明
- 議事Ⅱ 令和7年度事業実績について 事務局説明
- 議事Ⅲ 令和8年度事業について 事務局説明

【質問・意見】

委 員： 令和7年度予算額よりも決算額が1千万円ほど増加となるが、問題ないのか。

事務局： 収入については、事業による国県の補助金、木材の売却代、サポーター制度の協賛金の関連収入があり、基金については総事業費から関連収入を差し引き、不足分を基金から取崩すものである。令和7年度の基金取崩額は、例年通り1,565万円である。

委 員： 基金の取崩額を一定にしているのか。

事務局： 計画的に水源かん養林整備を行うこととしており、整備費は増加傾向にあるため、基金の取崩額は今後増加する見込みである。毎年5ヘクタールを整備していく予定であるが、中長期的にどのくらいのペースで整備し、予算を確保していくかも課題と考えている。

委 員： 費用が増加した理由に労務単価の上昇、搬出費用の増加等があったと思うが、当初の予定を超えて木を伐採する必要が生じたのか。

事務局： 事前調査で伐採する木材量を想定していたが、実際には想定より木材の搬出量が多かったため事業費が増額となった。一方で、木材は市場単価の変動や施業場所によって木材の品質が異なるなど、令和7年度の木材売却収入は想定より減となった。

委 員： 農林水産局では 10 年間で 920 ヘクタールを花粉発生源対策として施業計画としている。引き続き水道局での 5 ヘクタール施業を継続いただきたい。農林水産局でも木材利用のために民間企業への支援等を行うことで裾野を広げていければと考えている。

事務局： 水源林の大切さを知るための学びのゾーンを整備する予定であり、バイオマストイレなどの環境整備に森林環境譲与税を活用できればと考えている。

委 員： 森林環境譲与税で公共施設の木質化を進めており、提案の内容が森林環境譲与税の対象となるか、施策のバランス等も考慮して検討したい。現在、農林業総合計画を策定中であり、連携して整備事業を進めていけたらと考える。

委 員： ふくおか水源の森サポーター制度など、広報の工夫などがあれば尋ねたい。

事務局： ふくおか水源の森サポーター制度に関しては、ホームページ掲載、水道関連業者等への電子メール送付や制度説明を行っている。交流事業の広報は、これまで市政だよりが主な広報媒体であったが、水道局アプリのプッシュ通知や動画配信などにより、40 歳未満の参加者の割合及び応募倍率が増加となる効果があった。

事務局： 筑後川水源地域対策基金も森林整備事業や交流事業に対して助成金を交付しているが、事務局が博多駅から久留米市に移転したことで活動団体の情報が入るようになり助成団体が増加している。定期的に活動している団体と情報がつながれば、マッチングもうまくいくのではないかな。

委 員： サポーターを増やすという観点から言うと、地域で地道に活動する人との連携があるからこそ、企業が支えたいとなるといった相乗効果があるように思える。

委 員： これから先の 100 年という観点で、こどもたちに目に見えにくいもの、水の大切さをどう伝えるのかと考えている。現在は AI を活用する時代だが、技術を継承していくことも大事だと考える。

委 員： 令和 7 年度でも意見したが、市民活動助成金の要件が厳しい。交流という要件と直接事業の経費の半額助成という厳しい要件である。要件や助成額を検討して使いやすい助成金になればいいと考えている。
少し興味はあるけど活動はしないという層に、例えばバスツアー等水源でアプローチをかけたらいいのではないかな。

事務局： 関心のない層への働きかけなど、事業主旨を踏まえて効果的な事業になるよう検討していきたい。

委員： こどもの活動では、自然共生サイトとか、カヤックなど緩めの入り口があるといい。
川での活動については、駐車場、トイレ、川に降りる道の最低３つがあれば人は勝手に川に集まる。お金をかけなくても水源の森を使いやすくしたらいい。

事務局： いただいたご意見などを参考に、本基金を有効に活用して事業に取り組んでいきたい。